

(株)九建クラフト・豊國建設(株)

迅速かつ安全に施工

新工法による法面工事を現場見学

竹田市大字長湯の筒井地区で県竹田土木事務所発注の災害防除工事の一部の工事で新工法を試験施工している(株)九建クラフトと豊國建設(株)はこのほど、土木事務所職員やコンサルなど工事関係者を招いて現場見学会を実施した。

見学会では、調査から工法決定までの流れや調査結果に基づく工法選定に至った経緯などを(株)九建クラフトの阿部博昭現場代理人、豊國建設(株)の幸朝夫現場代理人がそれぞれ説明を行った後、実際に見学を行った。

九建クラフトが担当している工事(平成 26 年度防安地防竹第 2 号災害防除工事)では、法面の既設モルタルを取り壊し後に再吹付する補修工事の一部を、モルタルを取り壊さずに補修で

「のりフレッシュ工法」と「岩盤掘削工法(RCM)工法」

きる「のりフレッシュ工法」を提案。

この工法は、吹付け背面の地山状況や背面空洞の状況、地盤の風化程度、崩壊の有無等の調査により、既設モルタル補修型(アンカーボルト仕様、アンカーボルト仕様+空隙充填工)、地盤補強型(グラウチングボルト仕様、自穿孔グラウチングボルト仕様)、ロックボルト併用型(2重管自穿孔グラウチングボルト仕様)の 3 タイプがある。

施工フローは、高圧洗浄機による法面清掃、削岩機などによるアンカーボルト工、ハンマードリルによるカップルボルト工、人力による水抜きパイプ設置工、吹付機による増厚工などを経て完成となる。

また、豊國建設が担当している工事(平成 26 年度防安地防

竹第 2 - 2 号災害防除工事)では、人力による高所法面の切取りや切崩し、掘削、抜根など危険度の高い高所作業を、迅速かつ安全に施工する高所岩盤掘削機による「岩盤掘削工法(RCM 工法)」を採用。

地山の点検や立木アンカーの選定・引張試験などの事前調査を行ったうえで、岩盤掘削機を立木から滑車付きワイヤーで吊るし、オペレーター、重機監視人、転石監視人以外は作業現場に立ち入らず作業を

行うもの。

両工法ともに、竹田土木事務所管内では初めて採用された工法で、迅速かつ安全に作業ができることから、発注者の土木事務所からも職員が勉強会を兼ねて多数参加。土木事務所では『今後も業者から提案があれば協議を行ったうえで積極的に採用していきたい』と話していた。

